

令和4年度 江東中 学校評価(自己評価と改善の方向性)

評価基準 A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった D 全く達成できなかった

中期目標	短期目標	評価の観点	目標達成のための具体的方策			担当 担当	主担当	評価方法 (評価アンケート)			自己評価		改善の方向性	学校関係者評価委員評価		
			だれが	期間	どのように			生徒	保護者	教職員	評価	達成状況		評価	所見	
(1) 学力の育成	授業改善と教科指導の充実	各教科のアクションプランに基づき、授業改善および指導の工夫がなされている。	全教職員	年間	・生徒同士がお互いにかかわりあいながら学び活動する場面を設定する。 ・生徒の振り返りの場を確保し、学習内容の定着を図る。	1	研究	田邊	① ② ③		①	A	・生徒の学校評価において、「わからないことなどを周りの人や先生に聞いている」という質問に対して、1学期よりも2学期の方が肯定的に答えている生徒が増加している。	・今後も生徒同士がかかわりあいながら学ぶ活動を全職員、全教科で意識的に取り入れ、授業を行う。	A	・達成状況にある通り、1学期よりも2学期の方がより質問する生徒が増えている、そういう雰囲気を作れていることがとても評価できる。 ・今後も重点を置いて取り組みを進めてほしい。
			全教職員	年間	・授業公開などの機会に指導主事の研修を設定し、全教職員でうける。 ・研修の成果を自分の実践につなげたり、校内に伝達したりする。	2	研究	田邊				A	・計画的に、訪問指導等、研修の機会を設定することができた。 ・夏季研修で行ったケース会議を、以降の職員会議でも継続して実施し、研修で学んだことをいかすことができた。	・今後も計画的に、訪問指導等を実施し、教職員の研修の機会を充実させる。	A	定期的に研修の機会が設けられている点が評価できる。
	全教職員	年間	・全教職員で生徒についての情報を共有し、個に応じた指導・支援を図る。	3	生徒指導 特支C	酒井 服部	④		③ ④ ⑤ ⑥	A	・学年ごとに“特に支援の必要な生徒”をピックアップし全教職員で対応について定期的に協議を行い、手立ての振返と取組を検討した。 ・少しでも気になることがあれば、職員朝礼や空き時間等を活用して随時情報交換を行い、個に応じた指導・支援を図った。	・今後も全教職員で対応する体制を継続する。	A	きめ細やかな対応や職員間の情報交換が適切になされている。		
(2) 人間力の育成	学習習慣の定着	朝の始まりの時間を大切にし、基礎・基本の定着と学習習慣の定着が図られている。	全教職員	年間	・朝活動については、教員が丁寧に指導にあたり、朝の時間が落ち着いて過ごせるようにする。 ・個々の実態に即した課題の出し方を工夫する。	4	研究 学力育成	田邊	⑤	① ②	②	A	・年度初めに、朝活動の取り組み方について改めて教員、生徒と確認したことで、昨年度より落ち着いて朝の時間を過ごすことができた。生徒の学校評価においても、全生徒が朝活動を落ち着いて過ごせたと答えている。	・今後も継続して朝活動の指導にあたる。	A	一日の始まりの朝活動を重視して落ち着いたスタートを切れている点が評価できる。
	仲間づくりの充実	主体的で協力的な生徒会活動ができている。	全教職員	年間	・縦割り班や生徒会活動を通して、他者との関りの中で主体的な活動の場面を設定する。	5	生徒指導 生徒会	酒井 浪崎	⑥ ⑦	③ ④	⑦	A	・清掃活動の縦割り班や生徒会活動を通して、他者との関りや主体的な活動の場面を設定することができた。 ・体育祭などの全校の活動を通して主体的・積極的に行動していた。生徒の学校評価においても、他の学年と協力することができたと答えている。	・今後も縦割りや生徒会活動を通して、学年を超えた他者との関わりや主体的な活動の場面を設定していく。	A	・横のつながりだけでなく、縦のつながりも工夫して設定されており、生徒間のつながりや、成長のために必要な機会が設定されている。 ・上級生がリーダーとして主体的・協力的に取り組めていて良い。
		学校行事の充実を図っている。	全教職員	年間	・体育祭や文化祭、修学旅行などの学校行事でねらいを明確にし、達成感をあじわわせる。	6	教務 総括	松島	⑥		⑧ ⑨	A	・体育祭や文化祭は今年度から午前中開催としたが、どの行事にも異学年同士が交流できる活動を取り入れて、上級生のリーダーのもと、生徒は主体的に取り組むことができた。特に文化祭での全校生徒による音楽パフォーマンスの発表の成功は大きな自信となった。	・小規模校であることを利点として、今後も縦割りの活動を工夫して取り入れていく。	A	昨年度までをそのまま踏襲するのではなく、今の現状にあった形で学校行事が工夫されている点が評価できる。
人権教育の充実	生徒の人権意識の高揚を図っている。	全教職員	年間	・人権集会に向けた取組を計画的に行う。 ・人権週間において、生徒一人一人の人権意識が高まるように講演会を設定する。	7	研究 人権・同和教育	浪崎			⑩ ⑪	A	・人権集会に向けた取組を計画的に行うことができた。 ・人権週間において、生徒一人一人の人権意識が高まるように講演と全校での活動を設定することができた。 ・10月に人権講演会を設定し、全校生徒で活動ができた。生徒の事後の振り返りは人権課題に対する理解が深まったことが伺える内容であった。	・更に1月末の人権集会を通して、人権意識を高め、違いを認めあい自他共に大切にできる学校を目指す取組をした。 ・引き続き計画的に人権同和教育を推進すると共に、分掌を超えて学校全体で取り組む。	A	人権意識の涵養に向けて、計画的に学校全体で取り組まれている点が評価できる。	

令和4年度 江東中 学校評価(自己評価と改善の方向性)

評価基準 A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった D 全く達成できなかった

中期目標	短期目標	評価の観点	目標達成のための具体的方策				担当 担当	主担当	評価方法 (評価アンケート)			自己評価		改善の方向性	学校関係者評価委員評価								
			だれが	年間	どのように	8			9	10	11	12	13		14	15	16	17	18	19	20	評価	所見
(3) 社会力の育成	ふるさと・キャリア教育の充実	自己理解を深めさせるとともに、キャリア発達を促す取組を行っている。	全教職員	年間	・生徒のキャリア発達を踏まえて、諸活動を計画・実施する。 ・職場訪問や職場体験、調べ学習を通して職業観・勤労観を育てる。	8	研究 キャリア教育	田邊	⑧	⑥	⑫	A	・1年生時に調べ学習、2年時に職場訪問、3年時に職場体験を通して職業観の育成を行った。3年間を見通して、計画的にキャリア学習に取り組むことができた。	・引き続き、総合的な学習を中心に、各学年でキャリア学習を計画的に実施する。	A	・コロナ禍の中でも、ふるさと・キャリア教育は活発になされ、思いが伝わってきた。 ・3年間を見越しての計画的なキャリア学習がなされている点が評価できる。							
		体験活動や地域で働く人の思いを聞き、ふるさとへの愛着を育てる。	全教職員	年間	・地域の「ひと・もの・こと」を活用できるように、計画的に学習活動を行う。	9	研究 総合的な学習の時間	山内	⑧ ⑨	⑤	⑬ ⑭	A	・年度当初に3年間を見通したふるさと学習(総合的な学習の時間)のねらいや学習計画を立てることができた。 ・市のコーディネーター(てごねっと石見)との連携を密にしたことにより、地域の「ひと・もの・こと」をより活用できた。 ・ふるさと学習における職員と生徒の評価と家庭での評価が乖離している。	・今後も3年間を見通したふるさと学習のねらいや学習計画をブラッシュアップできるようにカリキュラムマネジメントを行う。 ・今後もふるさと学習の計画等のお知らせや学級通信、学校だよりを活用した情報発信に努める。	A	市のコーディネーターと連携され、地域や自然、本物に触れるふるさと学習を熱心にされている点が評価できる。							
(4) 信頼される学校づくり	安全教育の充実	防災意識の向上のための様々な取組を行っている。	全教職員	年間	・学期に一回の避難訓練を実施し防災意識の向上を図る。	10	総務 総括	堀	⑩		⑮	A	・学期に1回、計画的に実施することができた。特に1学期は避難場所である体育館で総務課の方を呼び、実際に体育館に避難したときのような対応ができるか(段ボールベッド・パーティションの組立)や防災倉庫の見学ができた。 ・災害時に学校や家でどのような行動ができるか学ぶことができた。	・引き続き生徒の防災意識が向上するように計画的な実施をする。	A	適切な避難訓練、防災意識を高める講演・研修等適切に行われている。							
		安全意識の向上のための様々な取組を行っている。	全教職員	年間	・交通安全教室を行う。 ・交通安全の意識を高めるために、朝礼・終礼(部活終礼)時に交通安全のルールの徹底と安全タスキの着用を呼びかける。	11	生徒指導 保健安全	酒井	⑪	⑧		A	・交通安全教室に合わせ、「自転車マナーアップモデル校」の指定式も行い、交通安全意識の高揚を図ることができた。 ・朝終礼時や部活動終礼時に安全に対する声掛けを継続し行ったことで、生徒の意識が向上し、登下校中の交通事故等は無かったことにつながったと思う。	・引き続き生徒の交通安全意識が向上するように計画的な実施をする。	A	危険個所の確認や交通安全教室、生徒への声掛け等、安心安全に対して細かな配慮がなされている。							
		情報モラル教育の充実のための様々な取組を行っている。	全教職員	年間	・実態把握のためのアンケートを実施し、指導に生かす。 ・情報モラル講演会等を活用して、実態に即した指導を行う。	12	生徒指導 保健安全	酒井	⑫	⑨	⑯	B	・アンケートによって、早期にトラブルの認知に努めることができた。 ・学級活動等によって、生徒の情報モラルについての指導を行っているが、家庭でのルールづくりは不十分のように思う。	・PTA等と連携して、スマホ・ゲーム機等の使用について、家庭でのルール作りを更に推奨していく必要がある。	B	アンケートや学級での声掛けや指導等は学校として適切に行われている。 ・メディアとの家庭でのルールづくりが不十分である。生徒も保護者も評価が低いので、PTA活動とより連携して重要性を伝えてほしい。							
	地域の力を活用した学習活動の支援体制の充実	全教職員	年間	・地域のひと・もの・ことを活用した学習活動の支援体制を整えている。	13	総務	堀			⑰	A	・4月から学年主任と話し合い、3年間を見通した総合的な学習のねらいを明確にすることができた。 ・市のコーディネーターと連携を密に図り、学年のねらいに沿った内容や講師の選定などの相談に乗ることができた。	・引き続きふるさと江津に根ざした学習を計画的に実施する。	A	市のコーディネーターと連携され、地域や自然、本物に触れるふるさと学習を熱心にされている点が評価できる。								
	学校予算の適正活用	全教職員	年間	・前年度の執行状況と本年度の教育計画から費用と予算を見直し、適切に執行する。	14	総務 事務	大野				⑱	A	・昨年に引き続きコロナ関連予算や市費備品購入等、教職員の要望を聞きながら随時執行に努めることができた。	・年度末に向けて職員と連携し、更なる適切な執行に努めていきたい。	A	分析の通り、適切に処理されていると思います。							
	安全な学校環境作り	安全な学校環境作りの取組を行っている。	全教職員	年間	・月ごとに安全点検を行い、その結果を活用して改善する。	15	総務 総括	堀 松井		⑩	⑲	A	・毎月管理担当者が安全点検を行い、修繕箇所は速やかに対応することができた。 ・学校で難しいときは市教委に相談をして、迅速に対応したので来年度から計画的に修繕される予定である。	・全教職員で定期的に点検することで未然に危険個所を見つける体制作りをする。	A	分析の通り、適切に処理されていると思います。							
学ぶ場にふさわしい学校環境作りの取組を行う。		全教職員	年間	・ICT機器などが利用しやすいように準備・管理をする。	16	総務 総括	堀				A	・生徒用タブレットを簡単に出入力できるように、棚を設置して充電ができる場所を作ることができた。 ・休み中に貸し出しがしやすいように、タブレットと充電コードに出席番号をつけて管理しやすく整備することができた。	・生徒が学習しやすい環境作りに努める。	A	学習しやすい環境作りのために工夫されていると思います。								
効果的な情報発信	全教職員	年間	・学校だよりや学年通信を定期的に発行し、地域のコミュニティセンターにも情報を伝える。 ・配信メールを活用して学校行事や授業などをできるだけ保護者に見に来てもらう。	17	総務 総括	堀	⑬	⑪	⑳	A	・学校だよりが家庭だけでなく、地域のコミュニティセンターにも毎月届けて学校の様子を伝えることができた。 ・行事や参観日等の情報を事前に知らせることができた。	・今後も毎月のコミュニティーセンター等へおたよりを届けることで、地域の方に学校の様子を理解してもらい、声のかけやすい学校作りに努める。	A	家庭や地域に情報発信をされ、開かれた学校作りに向け工夫されている。									